

平成 29 年 4 月 10 日

北海道サッカー協会各位

北海道レフェリーアカデミー第 1 回 議事録

報告者：堀 悠雅（札幌）

<日 時> 平成 29 年 4 月 8 日（土）、4 月 9 日（日）

<場 所> 北区民センター、札幌ドーム

<参加者>

北海道サッカー協会 : 出口 明 会長、佐藤 公一 副会長
レフェリーディベロップメントオフィサー : 山崎 裕彦 氏
インストラクター : 伊藤 真也 氏、荒屋 寛 氏（1 日目）、
古曾部 統太郎 氏（1 日目）、三上 正一郎 氏
審判員 : 堀 悠雅、宗像 瞭、板矢 智志、須磨 和樹
オブザーバー : 佐藤 諒 氏

4 月 8 日（土）

10:15 集合：北区民センター

その後ウェアなど配布、会場設営

11:00 オリエンテーション

開講式 出口会長、佐藤副会長挨拶

アカデミーマスター、インストラクター、審判員・・・自己紹介兼抱負

記念撮影

メンター発表（堀→古曾部 INS、宗像→伊藤 INS、板矢→三上 INS、須磨→荒屋 INS）

作文（抱負）の作成



11:30 The Japan's Referee 山崎 RDO

地域レフェリーアカデミーが設立された概要

日本の審判文化として FIFA ワールドカップにおける決勝レフェリーの提供（継続的）を目指し、逆算して若手年代の育成。

審判能力だけではなく、人間性の育成や異文化への適合など様々な講義を定期的に行なう。しかし、トップは限られているので、全体の底上げをしていきたい。

12:10 昼食

13:15 競技規則第 12 条 判定までの手順 三上 INS

判定を下すまでの手順として、状況把握、ポジショニングなど様々あるが、その中でも行為や状況について

違反、反則、ファウルの違い

違反・・・競技規則全般にかかわること

反則・・・競技規則第 11 条、12 条にかかわること

ファウル・・・違反と反則の中でも直接または間接 FK となるもの、インプレー中によって起こり得るもの、競技者によって起こり得るものなどそれぞれ違いがある。

例えば退場を示すとき、決定的な機会の得点の阻止という状況的なもので判断するのか相手競技者に対して過剰な力を用いて肘を打つという行為的なもので判断するかということ整理する。警告を示すとき単純な例では反スポーツ的行為かラフプレーなのかということである。このように行為+状況で総合的に判断しなければならない。その判断材料として考慮しなければならない点は、「プレーの方向」「タイミング」「強さ」「スピード」「危険性（接触部位）」である。これらの目に見えるものを踏



まえて、一般的に考えたとき、どのような意図でどれくらいの程度かということ来判断していく必要がある。

14:30 開拓者精神 山崎 RDO

北海道や帯広における開拓者として依田勉三が挙げられる。彼の開拓者としての歴史に触れつつ、なぜ北海道を開拓しようとしたのか。冬ともなれば気温も氷点下の世界である。その点で北海道レフェリーアカデミーの審判員として何が出来るか。身近な仲間やほかの審判員、地区委員長、家族、メディア、チーム、JFA, HKFA と具体的な人にたとえ、情報共有、審判員としての品格、定期的な報告、言動や挨拶など基本的なことをしっかり行い日ごろからアカデミー生として自覚を持つ必要がある。

16:00 移動、軽食

18:20 札幌ドームにて観戦研修

明治安田生命 J1 リーグ第6節 北海道コンサドーレ札幌 v s FC 東京

(R: 松尾 一 A1: 八木 あかね A2: 平間 亮 4th: 眞鍋 久大)

入場後ピッチレベルで審判員アップの観戦、スタジアム雰囲気を感じ、試合開始後はスタンドで各メンターと観戦し指定書式のレポート記入。

21:00 解散、1日目日程終了

2日目

8:45 集合

9:00 振り返り、レポート提出

9:15 第1条~3条フィールド 伊藤 INS

基本的なフィールドについて確認、フィールドインスペクション時に意識している点を確認

図のように 9.15mはラインのどこからどこまでが 9.15mかということについても確認を行った。

試合前に警告に値するような行為があった場合→該当競技者、監督及びマッチコミッショナーにその旨を報告。

メンバーリスト提出後退場に値するような行為を犯す→その競技者を試合に参加させないようにする権限を持つ(交代要員からの補充は可能)

懲戒処置を行使する権限は試合前のフィールド点検時から終了後にフィールドを離れるまで持つ。

試合開始時、フィールドに入ってから試合終了後までカードを示す職権を持つ。

これらの事柄について整理。

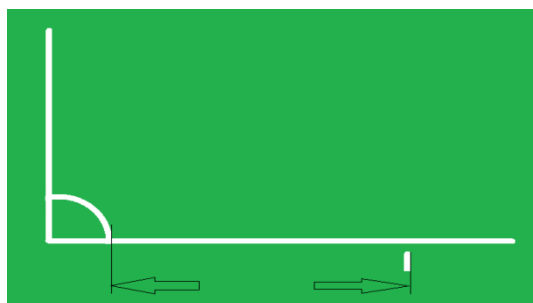


11:00 地域特色 Team work

山崎 RDO

6人で人差し指にのせたフラフープを上下運動させる→上下運動させる際何を考えたか、また何をしたらよくなるか・・・コミュニケーション、配慮など

ダイヤモンドナイン・・・チームとして明確な目標を達成するために協力していくこと、それに基づいて実行、自律し、その結果を分析・改善していくことで各自の役割を認識していくことなど優先順位を整理した。



11:30 競技規則 サッカーの生い立ち 山崎 RDO

そもそもサッカーの語源はなにか、Football との違いはなにか→association の中の soc からとったとされている。1863年に競技規則が完成し各学校でばらばらだったルールが統一された。FIFA の設立に関して、フランスで1番最初に作られる。

12:00 昼食

13:00 競技規則 対角線式審判法 山崎 RDO

基本的なポジショニングについて対角線式審判法を用いることが利点が多い。しかし状況によって常にポジションを修正しなければならない。そもそも何のために走るのか、何を見るためののかを考えていく。



13:20 競技規則 審判報告書の書き方 三上 INS

公式な文書であるので丁寧に書かなければならない。また公式記録を差異があってはならない。

映像を用いて、警告や退場における重要報告書の書き方やその他の報告事項の書き方を行う・・・基本的には競技規則の文言を用いて、具体的に書く。(退場シーンについては宿題となる)

(ペナルティーエリア内における、得点機会の阻止で PK、警告になる反則に関して、①警告欄に記入し②理由は「反スポーツ的行為」とし、状況を簡潔に記入、③状況の記入において記入欄が足りない場合は「その他の報告事項」の欄に記入する。その際、重要報告書には記入しないという段階を踏んで記入する場面があることを覚えておくとうい)

14:30 競技規則 ビデオクリップ 「ヘディングの競り合い」 伊藤 INS

映像を見ながら、競り合い時における意識しなければならない点を確認→競り合い時の争点はどこであるか、それに伴ってどのようなポジショニングが適切かまたプレーの方向、タイミング、強さ、スピード、危険性はどうか

15:10 競技規則の歴史 審判員の登場 山崎 RDO

カードの誕生→1900年代におけるワールドカップでドイツ人審判員がアルゼンチンチームのキャプテンに退場を命じた。しかし、言葉が理解できず退場させることに手間がかかった。何かいい方法がないかと模索している中、信号機をもとにカードを用いることを発見。1966年のワールドカップで導入したが実際にカードに値することがなく、1970年のワールドカップにて初めて使用された。

またレフェリーをアンパイアの違いはなにか・・・レフェリーは基本的に「委ねる」、「付託する」という意味を持ち合わせているので大原則として、どちらかわからない判定はレフェリーに任せるという考え方がある。アンパイアはもともとフランス語で「裁定者」、「対等でない人」という意味が語源で、「非当事者」という意味である。サッカーにおける「審判」の歴史として、19世紀中ごろから勝敗が激しく争われるようになり、双方のチームからプレーに関係していない第三者であるアンパイアを出すことが習慣化した。その後アンパイアの意見が食い違った際にこの問題を解決する目的でレフェリーが誕生する。その後、歴史の中で権限が与えられるようになった。

16:10 今後の打ち合わせ、解散